

夏の犬医日記

(三) 井上武夫

家畜品評会

○月○日 各地で家畜品評会が催され、東奔西走の日が続く。年に一度のこの品評会は単に家畜の優劣を競うばかりでなく、家畜の感謝祭、更に家畜の改良を学ぶ場としては絶好の場でもある。本日の品評会は特に感ずる点が多かった。かかる得難いチャンスに当り、酪農家にお告げしたい事は、

一に心掛け、二に勉強、三に反省、この三つである。折角出陳される大部分の乳牛が削蹄されないままであり、日頃の心掛けの不足が、伸び且つ曲った蹄にあらわれているのを見るにつけ、一家を支える乳牛様が気の毒に思えてならない。まずは心掛け、次に出陳する者も、しない者も如何なる乳牛が優れた牛であるかを真げんに勉強してもらいたいものである。ばく然と出陳牛をみるのではなく、乳房ばかりを見るのではなく、出陳名簿の空欄に特に目立つ長所と短所を二、三点メモし、出陳された全牛群の資質からみてA、B、C、Dの段階をつけ、果して入賞牛との間に大差がなきやを比較してみてはどうだろう。面白くてやめられない筈である。乳牛の体型や体質をよく知

り、常に頭の中に乳牛の理想像を画いて居れば、長所、短所ぐらひはすぐ見分けられるのである。体高、胸囲の大体の目安についても同じことが言えよう。更に審査講評をよく聞き、入賞牛の長所と短所を、更にその地方その地方に於ける乳牛改良の要点を学び取って我流の配合は今後一切反省してもらいたいものである。

『一に勉強、二に体験、三、四がなくて又三元に戻る』の名言は、ホルスタインの大先生が言った言葉である。

買う身になって物売れ

○月○日 愈々暑さが増して来た。A部落の酪農家達が集まって酪農家各戸の経営状況を見学のため巡回する事となった。気温上昇に伴ない落等乳がふえるので特に牛乳の取扱状況を単念にみた。ロカ布の汚れ、攪拌器の汚れが目立ち、此等の器具で牛乳が管理されているのかと思えば、ソツとする。また、往診先で牛乳をよばれる事が多いが、おいしいね。とお世辞を言えば、『うちの牛乳を飲んだら町の牛乳はうすくて飲まれませんあー』とくる。

外国の牧場での話……搾った牛乳は沸か

さずナマのまま飲んで居る。ナマの乳(これこそ真の生乳)ほどおいしいものはないと彼等は言っているが、生の牛乳が一番おいしい事は、自分でも経験がある。搾乳しながらいたずらに自分の口の中へ搾り込んでみたその時の味は、今でも忘れられない。搾りたてのナマ乳が最も味がよく、栄養もあり加工すればする程、沸かせば沸かすほど真の牛乳の味は落ちるのである。酪農家は沸とうさせて、こうばしいとか、脂肪が濃いとかが言っているが、牛乳の味を知らないのであり、栄養等第二であり、もっと悪口を言えば、沸とうさせなければ、ハラをこわしはしないかと言う潜人感(実際に安心してのめないから)かも知れない。

自分で安心して飲めない牛乳だとすれば、人様に飲ませるのは良心がとがめるのが普通である。毎月の市乳代が家計費の中で、保健衛生費に組入れられた時代もあつたと言いが、昨今では、この事を信ずる者も居ないであろう。消費者も最近になって製造工場等よく見学するようになったが今後、社会見学の一端として酪農家の搾乳状況、処理保管状況を見学するようになるかも知れない。その時、『もう牛乳は沢山だ……』と言うような悪印象を与えたとしたら、一体どうなるだろう。牛乳は商品である前に食品である事をもう一度酪農家は認識し反省してみなければならぬ。

買う身になって物売らねばなるまい。よい品を安く売って信用をとるのが商売のコツ、

乳上げろ、乳下げろ、

○月○日 久方ぶりにゆっくりした日曜日、新聞の溜め読みで日が暮れそうである。牛乳に関係深い職業の故か、やはり酪農問題の欄はよく目につく。乳価値上げに関する交渉があるかと思えば、市乳値上げに反対する論争があり、乳業界も実にはなかである。問題は生産者が原料乳価をあげろ、消費者が市乳の値上げに反対と言う唯それだけのことである。

某紙に一生産者の声があった。……前文略……牛乳の消費が伸びないのも、乳製品が売れないのも消費者の立ち場からすれば高いからである。乳製品に豊富な栄養のあることは、全国民が知っているし、苦い薬をのんだり痛い注射をするよりも安い牛乳をガブガブ飲むようになったら……(中略)……メーカーが苦しい苦しいと言いが、われわれ生産者の苦しさとは比べものにならないのである。借金しなくても採算さえ合えば牧草にドンドン金肥も使おうし、ルーサンだって作りたい。生産者から消費者への価格差が一日も早く少なくなることを祈る……と。ところで一体、現在の原料乳価は安いのであろうか、そして市乳価格は高いのであろうか。売る身は高きをのぞみ、買う身は安きをのぞむは人情であり、牛乳や乳製品に限ったものではない。高きをのぞむ生産者にも、安きをのぞむ消費者にも大きな事を言えない面があるような気がするの自分だけであろうか。生産者個々については、生産費が高つく事のみを強調し、数年前に比較し改善、合理化のあとが全く見られないものも少なくない。生